

## 現中と現在の私、これからの私

卒業生の声

### 現中で築いたものの見方

向川俊浩〈第1期生・現代中国学部同窓会会長〉

昨年末の福田首相の訪中を皮切りに、今年5月の胡錦濤国家主席訪日、7月の北海道洞爺湖サミットと今後の日中関係を占う意味で重要な行事が行われ、8月の北京オリンピック、さらには2010年の上海万博を控えている現在の中国と向かい合いながら私は日本のメーカーで働いている。というと聞こえはいいが、実際のところそのようなマクロ的なことが、今の仕事に大きく影響を及ぼすことはまずない。では、昨年来日本で騒がれている餃子問題、聖火リレーを契機に取り上げられているチベット問題等はどうかという、(もちろん食品、マスコミなど一部の業種を除いてだが) これらも中国出張に行っても特に悪影響があるわけではない。中国人民は、日本国民と同じように日々普通に生活し働いていて、日本で飽きるほど繰り返し流されているニュースのようなことは、あくまで中国の断片を切り取ってきて、強調したものに過ぎないのである。

こうしたことは、今現在中国と関わりをもつて仕事をしているからわかるというものではなく、現中で経験することのできる、南開大学での現地プログラム、現地調査(希望者選出)、現地インターンシップ制度、留学(自費or公費)などを通して、培ってきた物の見方に依るものである。これは中国という場だけではなく、BRICsなどを含め、今後ますますグローバル化される私の仕事にも活かされていくものだと思っている。

皆さんも現中で学ぶからには、確固たる「自

分の物の見方」というものを磨くことを期待したい。

1997年3月名城大学理工学部数学科卒。同年4月愛知大学現代中国学部入学。99年9月より2年間外務省派遣奨学生として北京対外経済貿易大学に留学。02年4月鋳機メーカーである新東工業㈱に入社。現在、海外営業グループ中国担当

### 自分と真剣に向き合ってくれた 現代中国学部

岡部知寛〈第1期生〉

現代中国学部創設10周年、本当におめでとうございます。

私は1期生として1997年に入学し、留学期間も含めて6年間を過ごしました。その6年間の経験は、社会人になった今でも、迷ったとき、悩んだときの判断指標であり、自らのルーツとなっています。

現代中国学部では、東亜同文書院のDNAはもちろんとして、親心にも似た熱意で教鞭をふるう教授陣、アグレッシブで個性豊かな同期生に囲まれた強烈な刺激の中で、多感な時期をおもいきり過ごさせてもらいました。「中国を学ぶ」ことを通して、深く考え抜く力や異文化との対話、その理解など、ある意味で学問を超えた、「向き合う」ことの大切さを学んだ気がします。

大学というものは単なる空間で、その空間を如何にアレンジして最適な環境に変えていくのかは自分自身です。社会や会社においても同じことだと思います。臆することなく、勇気をもって真剣に向き合う姿勢を今後も大切にしたいと



思います。

そして、これからも「現中卒」という誇りを胸に、いまだに連絡を取っていただける数多くの恩師や、変わらぬ素敵な仲間たちに感謝しながら、生涯の財産として大切に向き合っていきたいです。

2000年台湾政治大学に留学。03年4月(株)電通九州に入社

## 現代中国学部は人間成長の場

小栗靖彦〈第1期生〉

社会人生活もはや8年目に入った。それでも大学生生活の記憶は色あせないから不思議だ。ほかの1期生とは違い、中国とは直接関係のない仕事をしている私にとっても、現代中国学部の4年間はかけがえのないものだった。

異国を学ぶことは、日本をより知ることもつながる。天津への留学は、現地の人々と触れたり、現地の空気を吸うことで濃密な時間を過ごすことができた。1期生ということもあり、全国各地から集まった同期生は個性豊かな人たちばかり。そんな同期との共同生活においても、多くの仲間と好きだけ語り合えたことは大きな財産となった。さまざまな出会いもあり、大学生生活は人間的に大きな成長ができた場所ともいえる。

在学中、語学学習に挫折した私だが、卒論作りの課程で、各分野の情報が詰まっている新聞のすごさを肌で感じ、業界の志望を固めたことを覚えている。入社前のイメージとは全く違う泥臭い記者生活をおくる中、愛知万博などこの地方にいても中国を身近に感じるニュースは数

多い。

そして、2008年に入ってから、冷凍ギョーザ中毒事件や四川大地震、北京五輪など中国に関する大きなニュースが相次いでいる。社会部に籍を置き、殺人事件などの警察取材や地域で起こるさまざまな地域ニュースに携わってきたが、できる限り中国のニュースにも触れていければと考えている。

2001年4月読売新聞社に入社。岐阜支局などを経て、08年5月から中部社会部

## 中国語研究の途上にて

加納希美〈第1期生〉

2001年3月私は愛知大学現代中国学部の第1期生として卒業し、以来中国語学という研究領域に足を踏み入れ年月を重ねてきた。中国語学専攻を決意した直接の契機は、現中2年次に受講した「中国語文法論」において中川裕三先生の警咳に接し、ある種の知的感動を受けたことに因る。一見無秩序な記号の並びに整合性を与え、無機質な原理原則の中に話者の概念世界を見出すという研究のあり方は刺激的で魅力溢れるものとして映った。

現中では日中間の個人単位での対話を実現し、中国をより深く理解するための手段として中国語習得が必須とされたが、私自身にとっては中国語とは決して単なる手段に留まるものではなく、自ら働きかけ対峙する対象そのものでもある。とは言えその根底にはやはり、中国語という言語自体を対象とすることにより、言語体系に織り成される中国語話者の概念世界をよ

り深く理解したいという切望がある。中国語という他者の言語と真摯に向き合い理解を深めようとする姿勢は、まさにその言語の話し手を尊重する態度の表明に他ならず、より深い理解に根差した中国語は相互交流の場においてより大きな効力を発揮し得るはずである。

現中時代に培ったこの信念は現在中国語研究の途上にある私の原動力であり、また中国語研究から得られた知見を教育の場に還元し、真の相互理解に通用する人材の育成に少しでも貢献したいという希望を育み、支え続けている。

2001年4月東京大学文学部に学士入学、03年4月同大学院人文社会系研究科に入学。現在同研究科博士後期課程に在籍中

## 縁

孫 焱 (第1期生)

私は1990年来日し、日本語を学びながら中国語を教えていました。そこで、日本語の勉強にはこれが一番役に立つと知人から渡されたのが『中日大辞典』でした。驚きました。日本にこれほど多量の中国語の語句や範例などを収録した辞書があって、しかも最初に編纂されたのが私の故郷の上海だったからです。私と愛知大学との縁はここから始まりました。

中国語を教えながら痛感したのは、言語は生き物だということです。言葉は時代や流行、歴史、文化習慣などとともに動いています。語学教師は発音や文法だけではなく、その言葉の文化的背景などを知ることによってやっと一人前になれるのではないかと、そう思って私は愛知大学現代中国学部に入學しました。

4年間の大学生活で、私はまるでスポンジのように中国に関する多くの知識を吸収しました。中国人でありながら、なぜ日本でまた中国を勉強するのかとよく聞かれます。ですが中国人だからこそ意味があるのです。異国であらためて自分の国を見直すことによって、案外はつ

きり見えてくるものがあります。そして自分のこともよく見えるようになってきます。現中での4年間は、私にとって忘れられない時間となりました。先生方にも感謝の気持ちで一杯です。

現在、私は「SUN 国際文化交流センター」をたちあげ、代表として日本と中国の文化交流の仕事に携わっています。仕事を通じて愛知大学現代中国学部との縁はまだ続いています。そしてこれからもずっと続くでしょう。

中国上海出身。1990年来日、92年からトヨタをはじめ、企業の語学研修を担当し、専門学校トライデント講師を経て、今も官公庁の中国語研修及び翻訳の仕事を手掛ける。『中日大辞典』編纂員。SUN 国際文化交流センター代表 (URL : <http://www2.ocn.ne.jp/~siccc>)、中部日本新華僑華人協会会長補佐・理事、名古屋商工会議所会員

## 中国との付き合い方を学んだ4年間

馬 淵 徹 (第1期生)

初めて中国の大地を踏んでから11年。シルクロードに興味があり、中国の地理や少数民族について勉強しようと、軽い気持ちで現代中国学部に入學したが、まさか自分が中国で働くことになるとは思ってもみなかった。私が現中に入學したころは、今ほど中国に対して大きなスポットライトは当たっておらず、高校の同級生からも「どうして中国語？」と言われたほど。ただ、私は現中で地理や少数民族、中国語だけを勉強したとは思っていない。簡単に言うと、これからの中国との付き合い方、中国の見方を勉強したと思っている。(言葉は後からついてきた程度だ)

今、私は会社の派遣で広東省の広州市で営業の仕事をしている。私以外のスタッフは全員中国人。日本語が話せないスタッフやお客様とは当然中国語での会話となる。広州に来て1年経ち、最近つくづく思うが、仕事で中国語が話せるのは確かに有利である。ただし、仕事をする上で肝心なのは、相手が何を考えて私と話をし

ているかだ。これを誤って理解すると、「だから中国人は……」ということになる。

名古屋から2、3時間もあれば着いてしまう中国、これほどまでに近いのに考え方は全く違う。この違う部分を現中での4年間で少し理解できたと思う。今後、中国と付きあっていく人は多くなり、中国語を勉強しようと考えている人も多くなると思うが、語学だけでは終わってほしくない。

2002年4月ヤマザキマザック㈱入社。神奈川営業所にて5年間の国内営業を経て07年6月ヤマザキマザック機床（上海）有限公司広州分公司に赴任

## 中国と日本の中で僕が思うこと

美濃一郎〈第1期生〉

現中で勉強していたのが10年近く前のように感じるのは、僕が日々の生活に迫られているからだろうか。僕の胸の真ん中には今でも北京での農村調査や上海外国語大学での留学の記憶が深く残っており、それが僕の原点となっている。

ここ2、3年の間、1、2カ月に一度は仕事で中国へ行くようになった。上海がほとんどだが、北京、青島、蘭州、福州、張家港などへも。10年パスポートはもうすぐハンコで一杯になりそうだ。都会の人、地方の人を問わず、仕事でもプライベートでもたくさんの人との出会いがあった。僕は常に彼らを通じて中国を見ていて、逆に彼らは僕を通して日本を見ているわけだ。

いつも感じていることだが、日本でも中国でも相手の本当の姿が見えていないように思う。毎日のニュースを見ながら、メディアやネットなどの伝える一面だけにとらわれてしまうことが多い。実際僕が知っている多くの中国人は日本人と変わらない部分もたくさんもっているし、彼らとの付き合いを通じて、メディアによるイメージではなく生身の言葉と感情が伝わってくる。考え方の違いはあるし、理解できない

部分もある。でもそれは当たり前のことではないだろうか。永遠に埋まらない溝を見ながら、でもその上から手をつなぐことができるのではないかと思う。距離はそんなに遠くない。

学生の時に何よりも大きな意味があったのは、現地で直にたくさんの中国の人と触れ合えたことだ。幸い今の僕には、気持ちを伝えられる友人もいる。これからも彼らを通して中国を見ていきたいと思う。

ジャスト㈱（アパレルメーカー）貿易室にて日々中国の皆さん相手に奮闘中！ 北京農村調査参加、上海外国語大学留学

## 台湾での大学院生活

安井伸介〈第1期生〉

私は愛知大学現代中国学部の1期生として4年間勉学に励んだ後、台湾大学政治学研究所(大学院)の修士課程、続いて博士課程に進み、現在に至っている。実際に学術界に接して気づくことは、中国語圏で活躍する他の外国人学生に比べて、現中で訓練を受けた者は中国語の運用能力において優位に立っているという点だ。現中は「中国語を学ぶ」というより「中国語で学ぶ」というスタイルを取っているため、台湾の大学院に進んでからも、中国語で議論し、論文を書くという段階に進むのに障碍が少なかったように思う。無論、中国語で論文を書くというのは簡単なことではなく、大学院に進んでから相当の訓練を積んでやっと自由に書けるようになったのだが、何よりそれが可能だったのは、現中にてしっかりと基礎を学んだからだろう。

学術活動以外に、台湾大学では中学、高校とやっていたソフトテニス部に所属し、日々仲間と楽しく過ごしている。台湾は部活といっても日本のサークル的な雰囲気、部活に参加したことで、真に台湾社会に溶け込むことができたと思う。台湾はソフトテニス人口が少ないため、ソフトテニスをやっているというだけである種

の連帯感ができ、何より経験者は重宝される。とはいえ、台湾は世界チャンピオンを度々輩出する強国で、試合にてナショナルチームの選手を見かけることもよくあり、貴重な経験ができるのがよい。留学した際には、是非その国の部活、サークルに参加することを薦めたい。

2001年9月台湾大学政治学研究所（大学院）修士課程に進学。現在同研究所博士候補生。専攻政治思想

## 夢を追って

愛知太郎〈第1期生・仮名〉

現代中国学部に入ってよかったと思うこと、それは個性の強い友人に出会えたこと、自分の夢を温かく応援してくれる教授、先生方に出会えたことである。現中で学べたことを心から幸せに思う。

自分の夢を口にして、それに真剣に耳を傾けてくれた先生がいたこと、夢に向かって切磋琢磨できる友人が見つかったことは人生において大きな宝である。

大学生活、留学生活で得たことと言えば、「実行は想像よりはるかに簡単で単純」ということだ。行動してしまえば、何でも案外簡単に事が運んでしまうのだ。即実行が成功の近道と言うが、まさにその通りだと思う。

社会人になって、10年あまり経ってしまったが、学生時代に思い描いた夢を実行する時が今まさにやってきている。

中国大陸で個人の店を開き、その後、アジア全土へ展開しようとする計画だ。

たまたま今、東南アジアで仕事をしているのだが、すでにそのような店が数多く存在しているのに気づき、非常に大きな刺激となった。1年後には自分の店が北京、広州辺りでオープンすることを目指したいと思う。現中の後輩へ大きな刺激となる人間になれるよう、必ずや実現させてみたい。

## 言葉の架け橋

橋爪麗子〈第2期生〉

私は祖母が中国残留孤児だったため、9歳の時に中国から日本に来ました。そのような環境のなかで自然と中国に興味を持ち、日本初の中国を総合的に学ぶ現代中国学部を受験しました。在学中はとにかく中国について理解を深めようと日中学生会議や中国社会調査、交換留学などの活動に積極的に参加しました。卒業後は商社に就職し、2年目から中国の工場に出向してビジネスの経験を積んできました。

仕事をする中で感じたことは、相手国の国民性を知らないが故に生じる誤解が実に多いということです。国民性と文化が違えば、仕事の仕方が違ってくるのは当たり前ですが、それを乗り越える方法がないわけではありません。相互理解を深めるために働くことこそが私の使命だと思い、今上海で日本から訪れる有名人やビジネスマンの通訳や中国の映画やドラマの字幕を日本語にする翻訳の仕事をしています。言葉ができるだけでは務まらない仕事ですが、在学中の経験と上海を中心とした愛知大学同窓生のネットワークが大きな助けとなっています。現中で学び、さまざまな人に出会い、そして現中の愛華倶楽部で知り合った主人の転勤で再び上海で仕事ができるようになって、本当に良かったと思っています。

平和を象徴するオリンピックが政治的に利用され、メディアの異常な反応で日中両国の国民の間に更なる溝が出来はじめている今こそ、日中の“架け橋”となって草の根交流に力を入れ、いい隣人関係でいられるように、頑張っていきたいと思います。

2000年上海復旦大学へ交換留学。03年ゴムノイナキ㈱入社。海外部にて1年間の勤務を経て、同社中国深圳工場へ2年間赴任。07年より上海にてフリーで通訳・翻訳の仕事をしている

## 現中がくれたきっかけ

堀井優子〈第2期生〉

私は、現中を卒業後2年間名古屋で事務員をした後、中国で働きたいという気持ちが忘れられず2005年6月に単身訪中、深圳市で昭和プラスチックに現地就職。昨年4月からは中国山東省済南市の同社工場で総経理アシスタントをしている。150人の社員に対し、日本人は総経理と私の二人。現中での4年間と在学中1年間の留学、そして卒業後の独学で培った中国語を利用して、設備のことから製造技術、購買から営業まで、たくさんのスタッフの助けを借りながら、総経理の意図を外れないようにするための旗振り役、といったらわかりやすいだろうか。ちょっとした意識のくい違いが原因で毎日思いもよらないトラブルが起こる。また相手は私よりもずっと経験、知識のある人たちである。総経理の身近にいるということだけで、一応話を聞いているふりはするものの、やはり100%は飲み込んでいない。試行錯誤の毎日。でも、そういったスタッフとの交流の中で、濃密な人間関係が形成されていく。上司の評価ももちろんだが、スタッフからの「堀井さんが来てから〇〇が良くなった」というセリフがやはり一番嬉しかったりする。

休日には異業種の日本人との交流も多くプライベートも充実していて、今のところはまだ完全帰国を考えていない。今後は変化の激しい華南に戻ることに、また仕事の上でももっと自分のできる範囲を広げて、専門分野を探しつつ、総合的な判断ができるマルチプレイヤーになりたいと思う。まだまだ先の話ですが……。

2000年上海外国語大学へ交換留学。03年3月卒業後に一般職として名古屋の企業に入社。05年6月深圳の日系プラスチック成型会社に入社。07年4月より同社済南工場にて勤務

## 中国と私

森本麻子〈第2期生〉

中国が大好きだ、なんて冗談でも言えない。ただずっと気になる存在ではある。今、私は中国方面を専門に扱う旅行会社で主に航空券の手配をしている。時間通りに飛行機が飛ばない、問題ない航空券にいわれなき理由をつけて搭乗させない空港スタッフがいる。フライトキャンセルが当日に決まることも少なくない。とにかく当たり前のことが当たり前に進まないことだらけでどちらかというとなんか嫌になることが多い。中国線は今、上海だけで名古屋から週40便以上。最近では明るくない話題も多く、需要の落ち込みは否めない。ただ中国がすでに我々の生活に欠かせない存在である以上、いい関係であり続けたい。

現地プログラムが私の中国初体験だ。あの4か月ほど、自分の国を素晴らしいと思ったことはない。毎日当たり前じゃないことの連続だった。私が中国で学んだこと、日本が全てではなく、しかも日本が決して「当たり前」ではないかもしれない？ 何が正しいかはその双方で導き出していくもので、一方的に押し付けたりできないということ。

冒頭で随分グチってしまったが、サービスだって昔に比べれば随分よくなった。それでもまだ不便に感じるのは日本のよいところを紹介できていないだけではないか。中国から多くの人が日本を訪れて日本をもっと知ってほしいと思う。そしてその現場に自分も携わることができるよう努力していきたい。

チャイナトラベルネットワーク勤務

## 現中で身につけたこと

貝嶋直子〈第3期生〉

現在、私は製造メーカーの総務部に所属し、

おもに採用の仕事をしています。仕事の内容は、大学で行われる合同説明会への参加、会社説明会の開催、採用ツールの作成などです。採用の仕事というのは、その人の人生を左右しかねない責任のある仕事で、最初はとまどうこともたくさんありました。しかし、社会人となって4年がたち、やっと会社や仕事にも慣れ、大変ながらもやりがいを感じています。

現代中国学部での生活を通して身につけたことで、今の仕事に一番役立っていることは、他人の価値観を理解しようとする姿勢です。中でも、中国での4カ月間の共同生活は私にとってよい経験になりました。中国の学生寮では、授業やプライベートの時間のほとんどを友人たちと過ごします。4カ月間、日本とは違った環境の中で共同生活を送ることで、親交も深まり、同じ年代の人の、さまざまな価値観に触れることができました。そして、自分とは価値観が違っていても、否定せず、お互いに理解しようとする姿勢を持つことの大切さを知りました。

採用担当として、さまざまな学生に会い、話をする機会がありますが、そのときは、外見や言葉の一部、自分だけの価値観で判断せず、その人がどのような人なのかを知ろうと努力しています。

将来の目標としては、人との関わりを大切にしたいと思っています。

2004年4月よりマスプロ電気株勤務

## 現中は人生の道しるべ

中島愛子〈第3期生〉

現中を卒業してはや5年。中国語は好きだけど、政治経済には全く興味をもてなかった私は、現代中国学部が掲げている「中国を総合的に学ぶ」という学習体制に反し、語学の授業にしか関心を示さない学生だった。

そんな中、現プロで中国に触れ、毎日の授

業で中国中国と聞いていた私に第一の岐路が訪れた。2002年、大学4年生になったばかりの春、「就職か留学か」、いくつか内定をいただきながら中国の夢を捨てきれず、2003年2月、卒業の年に1年と決めて北京へ語学留学。しかし……、同年4月、SARSの流行により無念の一時帰国。そんなこんなで無事留学を終えたのは2004年の7月。でもその北京留学が私の大きな自信になり、2005年の愛知万博で採用が決まった。閉幕後、セントレアの免税店にて1年勤め、現在は中国南方航空の名古屋支店で働いている。

思い起こせば、現中の門をたたいてから、私の人生はいつのまにか中国一色になっていた。いつでも中国語が近くにあつて、おもしろいことに、中国語の近くには魅力的な仕事がたくさんあった。これまであった数々の岐路。でも自分で決めてきたから悔いはない。むしろ充実している。まだまだチャレンジしていきたいから、今は中国で働くことが目標！ 強く思い描いて、前向きに努力していれば必ず手に入れられると信じている。「現中は私の人生の道しるべ」。あの時の岐路が、現在の私の原点だ。いろんなチャンスをくれた現中に感謝。

2003年卒業後、北京聯合大学応用文理学院に留学。現在、中国南方航空名古屋支店に勤務

## エイズ撲滅のために

山田耕平〈第3期生〉

大学在学中の台湾留学時に、世界各国から集まる文化の異なる人々との関わりやバックパッカーとしての旅を通して国際協力に興味を持ち、卒業後、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊に参加。03年12月から、アフリカのマラウイ共和国に村落開発普及員として派遣される。HIV感染率が全国民の15%と言われているマラウイにおいて、友人のエイズ発症など

をきっかけに、エイズ予防啓発ソング「ディマクコンダ（愛してる）」を制作し、現地のヒットチャート1位、マラウイの「レコード大賞」にもノミネートされた。その活動は海外メディアからも高い評価を受け、Newsweek 誌日本版06年10月18日号で「世界が尊敬する日本人100人」の一人に選ばれた。帰国後、EPICレコードより同曲をリリースし、収益の一部をエイズ検査施設建設費として寄付。またスワヒリ語で同曲を制作し、同作品がエイズキャンペーンの開会式典にてタンザニアの大統領に手渡された。07年11月28日に同曲の日本語版「ディマクコンダ～太陽のように君を愛してる～」をリリース。アフリカでの体験を綴った著書『自分に何ができるのか？ 答えは現場にあるんだ——青年海外協力隊アフリカの大地を走る』（東邦出版）を出版。

現在エイズ啓発やアフリカプロモーションのため自らイベントを企画し、テレビ、ラジオ、講演会等でも活躍中。自転車でエイズ予防を訴えるNGO「コグウェイ」を設立し代表を務める。08年7月にエリトリアの親善大使として現地にてエイズ予防啓発ソング制作&自転車ツアーを行う予定。現在早稲田大学大学院公共経営研究科でエイズ対策について研究している。

HP : <http://kohei-yamada.com/>

ブログ : [http://blogs.yahoo.co.jp/kohei\\_ndimakukonda/](http://blogs.yahoo.co.jp/kohei_ndimakukonda/)

コグウェイ HP : <http://cog-way.com/>

## 真の友好関係を築きたい！

杉浦愛子（第4期生）

現中を卒業してはや4年。学生時代の机の上での勉強はほとんど覚えていませんが、3年時の雲南省でのフィールドワークは今でも鮮明に記憶に残っています。まさに「百聞は一見に如かず」でした。

卒業後広東省深圳市の日系メーカーで働き始めて今年で5年目。留学とは違って仕事で文化

の異なる人たちとコミュニケーションをとるので、いつも好意的な人たちばかりではなく、怒って喧嘩になることも度々あります。しかし、日本人と違っていい点はサッパリしていることです。喧嘩した次の日も特に気にせず話し掛けられます。こんな中で仕事をしていくうちに、自然と喜怒哀楽をはっきり出せる性格に変わっていった気がします。

最近日本でも連日、中国のことが取り上げられています。中でも注目しているのが、訪日中国人がデパートでたくさん買い物をしているというニュース。今はまだ訪日の目的が買い物という人がほとんどのようですが、近い将来、観光も訪日の主要目的になれば、日本に対するイメージが「桜」「富士山」だけでなく、もっと豊富になり、それと比例するように日本との関係が良好になっていくような気がします。そのためには国がもっと外国人観光客が観光を楽しむやすいようインフラを整備したり、民間レベルで魅力的なツアーを企画したりすることが重要だと思います。私も今後はそういう分野で中国・中国人と接点を持つていけたらいいなと思います、今はその時へ向けて準備を進めています。

2004年3月卒業後、広東省深圳市の日系メーカーへ入社、現在に至る。近々日本へ戻り、自分の描く目標に向けて次の一歩を踏み出す予定

## 現中と私

伊藤ひろみ（第5期生）

私と現中との出会いは6年前に遡ります。夫の転勤に連れ添い、細々と続けていた中国語が何年経っても初心者レベルなのに一念発起し、留学するつもりで愛大に編入しました。

学部時代は、中国語だけの授業を聞き、中国語で日記をつけ、常に辞書を片手に置きました。周りには通訳や仕事に中国語を生かしている方がたくさんおられ、刺激になりました。とはいえ、机上の語学と生きた言語では大きな隔たり



があります。大学院にも入り、「老と死」について研究しましたが、中国現地へ調査に行くと、聴き取れず、話しても通じず、研究どころではなく笑うに笑えない状態でした。

陝西省で知り合ったおばあさんは「童養媳」で、幼いころに婿家に貰われ働いてきたので文字も書けません。自分の名前すらどう書くのかわからない人と筆談もできません。土地の言葉がわかる方に助けられ、やっと取材しましたが、私独りではどうにもならないことも数多くありました。この時、強く思ったのは、語学力だけではない何かが重要だということです。相手の人生に寄り添いたいという強い思いや共感があってこそ、初めて人との関係が成り立つ気がしました。彼らとの交わりは、人生も問い直させてくれるものでした。

現在、私は研究生のかたわら養護学校の講師をしており両立に四苦八苦していますが、これからもこの大きく深い中国と格闘していくと思えます。

2006年愛知大学大学院中国研究科博士前期課程に入学。  
08年3月同課程修了後も同大学院研究生として在籍中。  
08年4月より養護学校専任教員として勤務

## 本質を探ること

小笠原光人〈第5期生〉

このような機会をいただき、何を書こうかと考え大学時代を振り返ると、ゼミでの活動が一番思い出されました。

私が所属していたゼミは、中国の少数民族であるナシ族の村を訪ね、中国語による聞き取り調査を行いました。その村は雲南省の奥地にあり、昨今の目まぐるしい成長を遂げている中国とは無縁とも言える貧困地帯でした。しかしながら、他との交わりが難しい環境にある分、独自の文化が色濃く残っていて、大変興味深いものでした。帰国後は、この調査結果を基に、オープンキャンパスや学園祭での展示発表に力を入

れました。

私はこの体験や活動を通して、物事に対して表面的なことだけを見るのではなく、本質を探ることが重要であると学びました。それは、現在の仕事にも生かされていると考えています。現在、私はネットトヨタ東名古屋㈱に就職し、主に新車の営業をしています。営業ですから、お客様に新車を買っていただけるように、またお客様に満足していただけるように常に考え、さまざまな提案をしています。

残念ながら、中国とは全く無縁の仕事をしていますが、新聞等による中国関係の報道を目にした時や、ふと中国語が耳に入った時に、大学時代のことをよく思い出します。

大学時代に学んだこと、思い出や友人、恩師は今の自分の糧になっています。

2004年4月よりネットトヨタ東名古屋㈱に勤務

## 学生時代に得たこと

根津佳代〈第5期生〉

現中生として何も取り柄のない学生だったと思う。が、何もしなかったわけではない。授業は積極的に受講したし、現プロやゼミ・卒論も一生懸命取り組み、それなりに学生生活を過ごしてきた。その結果、私は中国やその周辺についての知識を得るとともに大切なことを学ぶことができた。まず一つは「物事の見方・捉え方」だ。物事は決して一方からの見方だけで判断してはいけない。中国について学ぶ上で大切なことだと私自身が常に気をつけていたことだが、社会人としてもとても大事なことであった。

二つ目は「問題意識を持つこと」だ。通常意外と難しいが、現中にいると必然的に身につく。この学部にいると大小関係なく常に問題や疑問が発生し、その改善策や解決方法を探さなければならないことが多い。例えば現プロでは毎日嫌でもトラブルが起きたり、疑問が生じる。そ

の前に自分自身があらかじめアンテナを張り、先回りしていれば気持ちにゆとりを持って対応できるということを自然と学ぶ。仕事も同じだ。どんな職種でも「与えられた仕事」をこなすのは当たり前だが、その中でどうしたらより効率よく働けるか？ どう改善したらお客様に喜ばれるか？ など問題意識を持って業務に取り組むことがレベルアップの第一歩だと思う。

今の業務は直接中国と結びつくものではないが、学生生活で得たことは大いに役立っている。これらを活かし、さらに磨きをかけて偏りのない前向きな女性になりたいと思う。

2005年4月東京海上日動火災保険㈱に地域型として入社。07年8月より大曽根支社に勤務

## 広い視野をもって

藤平 瞳 〈第5期生〉

現代中国学部を卒業し、3年の月日が経ちました。視野が狭く、頭の固い私を変えてくれた場所が、現中です。入学してすぐの現地プログラムをはじめ、SARSの影響を受け、2週間という短期間になってしまった廈門現地調査など、今までにないさまざまな体験が、私に広い視野を与え、多くのことを学ばせてくれました。

私は愛大卒業後、小学校教員免許を取得し、教員採用試験に合格することができました。現中でのさまざまな経験をアピールしたことが、合格につながったのではないかと考えています。そして現在は、岡崎の小学校に勤務し、6年生の担任をしています。中学へつながる大切な1年ということで、厳しくも、楽しい毎日子どもたちとともに過ごしています。総合的な学習の時間では、地球温暖化防止のために、中国の植林活動への協力ができないかと考え、話し合いを進めています。小学校の教員になって初めて、中国に大きく関係する授業ができそうなので、子どもたち以上に張り切っています。

しかし、この仕事がいいつも楽しいというわけではありません。生身の人間を相手にする仕事である以上、うまくいかず、あれこれ悩むことのほうが多いのかもしれませんが、しかし、子どもたちのほんの少しの成長や、何気ない一言が本当にうれしくて、教員になってよかったと心の底から思います。現中で得た多くのものを土台とし、これからも教員を続けていきます。目指せ！ 常に上を目指し、子どもとともに努力し、成長していく先生へ！！

2005年卒業後、新城市立東郷中学校に非常勤講師として勤務。同年明星大学通信教育部に入学、小学校教諭免許状取得後、愛知県教員採用試験に合格。06年4月より岡崎市立六名小学校に勤務

## 中国を楽しむ

小関 義 〈第6期生〉

私は、愛知県警察の警察官（中国語採用）として、平成19年4月に拝命され、現在は交番で勤務しています。交番の仕事は、地域に密着しており、道案内からパトロール・交通事故や被害の受理など幅広いものです。警察官は、時に命の危険も顧みない行動も必要ですし、事件があればすぐに対応し、さらにいつ起こるかかわからない事件に備える「有事即応・常時警戒」が必須であり、楽ではないですが、安全安心して暮らせる環境を守ることに誇りと使命感を持ってガンバっています。

学生時代を振り返ると、授業以外に学部内のサークルに参加して、中国人留学生との「相互学習」や飲み会、台湾では現地の学生や政党の職員と対日意識についての討論会、ゼミでも少数民族自治区における現地調査を行い、多くのことを学び、楽しみました。この経験から、「生」の中国を肌で感じながら積極的に中国人と交流した結果、自然と中国語のレベルアップにもつながりました。何事も楽しみを見つけて積極的に取り組むことにより良い結果が生まれると思

います。

近年、中国人が犯罪に巻き込まれる事件が急増し、警察内部でも中国語の需要が高まっています。私の目標は、通訳兼捜査員として犯罪の撲滅に努めることです。

2007年4月愛知県警察官を拝命。同年10月から愛知県江南警察署地域課勤務

## プラスαを目指して

丹島智美〈第6期生〉

3年前の春、名古屋税関に就職して、関税技術協力と初めて出会ったのは昨年10月でした。関税技術協力とはODA（政府開発援助）の一環としてわが国の財務省関税局・税関が開発途上国の税関当局に対して行っている関税分野に関する技術支援です。

名古屋税関では昨年10月に中国税関の研修員15名を受け入れ、私は幸運にも普通の輸出入通関の職場を離れて、対中ODAの一端に携わるチャンスを得ました。研修員といえども中国の各地方税関を代表して来日した地位のある方ばかり。彼らが名古屋に滞在する間、研修運営や生活のサポート、歓迎会の開催、また週末には観光に付き添うのが仕事でした。

「中国は今では我々が教える、彼らが教わるという上下の関係だが、近い将来対等に密輸などの情報を交換したり、共通の通関システムを構築するパートナーになるだろう。その時あなたたちの役割はもっと大きくなるよ」。上司のこの言葉が今でも頭から離れません。

正直なところ国家公務員になって大学で学んだことを生かすことはあまり期待していませんでした。しかし関税技術協力の現場と経験豊富な上司や先輩の背中を見て、中国とも関われるプラスαのある税関職員になれたら、と思うようになりました。大学で中国に出会い、さらに

対中ODAという新たな分野を知りました。税関職員3年生の私はまず自分の知識を固めねばと日常の仕事から関係法令や条約について学び、中国語の学習を続けています。

2006年4月財務省名古屋税関入関

## 子どもたちと中国

松田順子〈第6期生〉

愛知大学現代中国学部現代中国学科を受験する時の願書に「中国と日本の架け橋になりたい」と書いた覚えがあります。その時の想いはどのような形で中国と関わっていくのか、明確なものではありませんでした。「とりあえず、大学4年間で見つけよう」。そんな気持ちで現中に入りました。私は、現中でもあまり中国語ができる方ではなく、どうにか単位をとろうと考えている学生でした。あまり熱心ではなかったのです。

しかし、教育についてはすごく関心がありました。現中では先生方が熱心で教育実習前には模擬授業を何回も何回も見ていただきました。先生方の想いが伝わり、教員を目指すことに決めました。この教員を目指すなかで、今私は中国と深く関わる架け橋になろうとしています。

現在私は、中国の天津の日本人学校で子どもたちに中国語を教えています。子どもたちにとっての中国とは何か、どんなイメージなのか、私はいつも考えます。現中の学生はみんな中国が好きで中国語を学び、中国に来ています。しかし、日本人学校ではそのような子ばかりではありません。その子たちに今何が必要なのか、生活に必要な語学力や中国への理解など課題は大きく、私は右往左往しています。今私が教えている子どもたちは中国と日本の架け橋であると私は思っています。この子たちと一緒に、私は大きな橋になりたいと思っています。

今、私は現中で勉強してよかったと思うこと

がたくさんあります。発音や歴史、中国に対する想いはどの大学でも学ぶことはできないでしょう。そして、現中の学生すべてが4年間を土台として次に進める可能性を持っています。どんな道からでも中国に関わることが出来ます。たくさんの現中卒業生が世界のどこかで活躍し、大きな橋を次世代までも造りだせるように願っています。

2008年3月卒業後、中国・天津の日本人学校で中国語教師として勤務

## チャンスの宝庫 現中

稲垣真理子〈第7期生〉

大学を卒業し働き始めた今、改めて現中の教育環境がいかに充実していたかを感じています。

現地プログラムでは、初めて生の中国に触れ、自分の目で見て耳で聞き、体感することで、教室では理解し得ないさまざまなことを学びました。3年次には交換留学制度で北京に1年間留学し、語学力の向上だけでなく、太極拳大会への出場などスポーツを通して交流の輪を広げました。抗日戦争60周年の年だったのでつらい現状を目の当たりにしたこともありましたが、過去をしっかりみすえた上で前向きな発想に転換していかなくてはと強く思いました。就活前に参加した現地インターンシップでは、コンサルティング会社での実習を通して中国人独特の商慣習や中国式マナーを思い知りました。この経験は就活時の自己アピールに繋がり、企業の方に大変興味を持っていただけました。

私は今、技術商社で働いています。日本の技術が世界でどれだけ信頼され、期待されているかを実感し入社を決めたのですが、知識が皆無なのでゼロからのスタートです。右も左もわからないなか、私を支えているのは学生生活で培った貪欲に学ぶ姿勢と向上心、そして何とか

やっていけるという自信です。与えられた環境の中でいかに自分を成長させるか、を常に考えています。一度しかない今を精一杯過ごすこと、どんな経験も自分の糧にして前向きに歩むこと、これが私の目標です。

2005年北京第二外国語学院へ交換留学。06年現地インターンシップに参加。08年富士通エレクトロニクス㈱に営業職として入社

## 私と愛知大学現代中国学部

俞 杰〈第7期生〉

小さいころから異文化に興味を持っていた私は、日本に来ると、迷わず愛知大学の現代中国学部を選びました。中国人が中国学部を選んだのは何故かと、今もよく聞かれますが、理由はただ一つ、中国と最も関係の深い大学に入りたかったからです。

中国人だからといって、中国のすべてを知るとは言えません。見る位置を変えると、同じものに対する見方も違ってきますし、遠く離れて見た方がよく見えることもあるのではないかと、常に思ってきました。そして、愛知大学でそれをよく実感できました。現中の魅力は、単に中国のことだけではなく、日本と比較して同じところと違うところ、似ているところは何かを教えることにあります。また中国について経験豊富な多くの先生方から政治や経済、文化、宗教などを広く学ぶことができます。

愛大は中国に関心を持つ日本人学生の集まりです。ここで私はたくさんの友達を作り、互いに言葉の勉強から始め、日本と中国の違いについて徹底的に討論しました。おかげで日常会話には困らない程度の日本語力がつき、日本や日本人に対する理解も深めることができました。

しかし実際の文化の違いや人の考え方など深い部分を理解するには、学校だけではなく、やはり日本社会に入るのが一番だと思います。そこで、私は就職活動を始め、日本で本当の戦い

を挑みました。就活をきっかけに、日本の文化や習慣など、そして日本人の考え方で、さらに理解を深めました。また自分に何ができるのかから始まって、何をしたいのかを真剣に考えるようになりました。学校で、そして日本で学んだことをさらにブラッシュアップさせ、仕事で生かせるようにしたいと思います。

2007年3月卒業後、同年4月同大学大学院中国研究科博士前期課程に入学。現在、同課程2年に在学中

## 私の学び舎“現中”

内田勝也〈第8期生〉

私は自分の16年間という学生生活の中で、現代中国学部で過ごした4年間が最も楽しくかつ、有意義な時間であったと感じています。

私にとって現中へ通うことは自宅から自宅へ移動するような、不思議な毎日でした。それは、学生のことを心から親身に思ってください先生方が大勢いらっしゃったからです。

入学当時、私は語学がとても苦手で、中国語も例外ではありませんでした。ですが、入学後1年が過ぎ、2年が過ぎ、卒業する頃には自分の周りに中国語がないと落ち着かないほど、中国語が大好きになっていました。今になり振り返ると、身近だった先生方のお陰で、苦手なものに前向きに挑戦するよう自分を進化させていたのではないかと思います。語学が苦手だった私にとって、中国現地インターンシップへの参加や、中国留学は入学当時では考えもつかないほど大きな挑戦でした。もちろん失敗や辛いこともありましたが、そこから立ち直るまでにはいつも先生方や友人のアドバイスや手助けがありました。

就職先でも中国語を活かす前提で、現在は事務的な全く専門外の方面に挑戦しています。社会人1年生で何もかもがゼロスタートという状況は苦しいですが、自分自身への挑戦から得ら

れる報酬を知っている分やりがいを感じています。

先生方に支えていただいた4年間、心から感謝しています。今後も現中で学んだものを忘れず、自分の夢に向かって邁進していきたいと思っています。

2006年現地インターンシップ参加。在学中に北京外国語大学へ1年間の派遣留学。08年3月株式会社入社

## 混流学習を実践して

金津吉和〈第8期生〉

私は、30年間の社会人生活の後、会社を早期退職し、2004年4月入学、08年3月に卒業しました。入学当初は教職員とまちがわれることもあり、ちょっといい気分に浸ったりもしましたが、自分の子供のような年ごろの若い人たちと机を並べて学習できるという嬉しさと勉学に励みました。それにより私は若者から活力を貰いましたし、私から若者には私の経験を伝えることができ、まさに混流学習を実践し、充実した熟春生活をおくることができました。

特に2年次春学期の南開大学での4カ月間の語学留学は、貴重な体験でした。天津は会社員時代、仕事で駐在したことがあり、私にとって第2の故郷ですから、そこで学べることは最高の幸せでした。そして、この語学留学で「読める中国語」だけでなく、「話せる中国語」「聞ける中国語」を十分に修得できました。

卒業後、大学での勉強を活かして再就職しようと考えていましたが、さすがに、卒業と同時に還暦を迎える私を、採用してくれる企業、法人、学校関係はなく、未だ定職にはついていません。しかし、だからといって悲観もしないければ、あきらめているわけでもありません。時間をかけ、自分のやったことが活かせる職場を見つけるつもりです。そして、今後も勉学は続けていきたいと思っています。いかなる形に

せよ（例えばNHK講座を聴く、講習会に参加する、大学のオープンカレッジに行くなど）勉強は続けられますから。

最後に、愛知大学には、社会人入試（受入れ）にさらに力を入れて欲しいと願います。

中国語の自己学習を続ける一方、「高齢者の働きを増やす」という掛け声のみで実態の伴わない政府政策・企業戦略に挑戦して就職活動中

## 現代中国学部10周年によせて

河野純華（第8期生）

現代中国学部10周年おめでとうございます。私は8期生なので、まだ卒業して数カ月しか経っておりませんが、現中生として過ごした日々がとても懐かしく思い出されます。私の現中生活は、大学入学と同時に親元を離れて一人暮らしを始め、語学班は特別クラスでの授業、サークルでも愛華倶楽部に入部、と中国に浸った生活を送っていました。また現地プログラムに現地インターンシップ、現地調査にも参加することができ、とても充実したものでした。

そうした中で現地プログラム中には他国の留学生、また講義やサークルでは同期をはじめ先輩方とお話する機会が多く、それぞれの中国に対する想いを知ることができ、刺激を受けました。価値観の違いにぶつかることもありました。それが現実であることも知ることができました。インターンシップでは、自分の未熟さや無知に気付かされ、また中国で働くとはどういうことなのか教えていただき、仕事に対しての考えに変化が生まれました。

こうした影響もあり、それまで語学を中心に学んでいましたが、プラスαとして、発展途上国経済の山本一巳教授のゼミを選択しました。ゼミは毎回プレゼンテーションを行うハードなものでしたが、その後の就職活動や仕事に生かすことができ、とても感謝しています。この現代中国学部での4年間で受動から能動への姿勢

を築くことができ、本当に大きな成長を得ることができ感謝しています。現代中国学部のますますのご発展お祈り申し上げます。

2008年4月大和証券㈱に入社

## 4年間の大学生生活

佐々木敦美（第8期生）

現代中国学部で過ごした4年間で、「物事をやり遂げた時には、必ず成長できる」ということを学びました。このことに気付くことができたのは、私ひとりの力ではありません。

現プロでは毎週テストがあり、いつも周りの友人がまじめに勉強する姿に刺激を受けていました。そして私ももっと頑張らねばと、高いモチベーションを保っていられました。4年間で一番勉強していた時期です。そのおかげで現プロが終わるころのHSKのテストでは、学部全体の目標であった6級を取ることができました。

また、現地インターンシップにも参加しました。毎日新鮮な反面、大変でもありました。報告書など、なかなか仕上がらずに逃げ出したいほどです。しかし、何度も励ましてくださった先生方や、インターンシップの仲間がいてくれたことで、乗り越えられました。

今思えば現中には、学生のやる気を受け止めてくれるだけのチャンスが常に用意されていたし、私のまわりにはいつも助けてくれる仲間がいたのです。

この4月から社会人となり、新しく覚えることばかりで毎日が戦いです。心が折れそうなこともあります。現中での経験から、「何事も最初は大変だし、精神的にいっぱいいっぱいの時期を乗り越えたら、きっと成長できる！」と思えるようになりました。自分を成長させるチャンスをくれた先生方、いつも前向きにさせてくれた友達に感謝しています。

2008年4月濃飛倉庫運輸株に入社。通関課に勤務

## 現中あつての私

高橋知子〈第8期生〉

私は2008年3月に現代中国学部を卒業したばかりで、まだ社会人としての生活は浅い。しかし現中で過ごした密度の高い4年間は、振り返ると私自身の大切な一部となっている。

現中での生活は、中国語に始まる天津での現地プログラムや北京での現地インターンシップ、日本でのインターンシップ等、どこまでもアクティブに挑戦し続ける日々だった。結局、私は銀行員という道を選んだが、4年間の充実した学生生活は現在の私の原点でもある。

現在銀行の支店に配属されているが、中国人のお客様も時折おみえになり、配属数日目で中国語の通訳を命じられた。まだ仕事に慣れず、

周囲に迷惑ばかりかけているが、通訳だけは自信を持って役に立てる。ささやかな「貢献」ではあるが、支店の一員として働いている幸せを実感した。

銀行では、自ら仕事を覚えようとする姿勢やお客様に接する態度等、新しい現場に飛び込んで一から何かを学ぶことを心がけているが、これは現地インターンシップから学び得たものである。北京のヨーカドーでのインターンシップで自ら仕事を創り出し、チャレンジし続けたことを今でも鮮明に覚えており、現在とても役に立っている。現中で学んだすべてのことを生かして、毎日を充実させていきたい。そして現中生の誇りを持って早く一人前の社会人に成長し、お客様に必要とされ、銀行で活躍できる存在になりたいと思う。

2008年4月十六銀行に入社。名古屋市内の支店に勤務